



森林測量

て真心込めて育てるのが主な仕事ですが、そのための設計や図面引きもできるような教育し、資格やスキルを積極的に取得させてきました」

それらを可能にするための投資を惜しまず、労働条件も社員のモチベーションを高める視点から着実に整備してきた。

「業界内での資格取得率は、そう高くありません。何故なら、受験には実務経験が必要ですし、資格を取得するには、多額のコストもかかるからです。勉強のために働く時間が少なくなり、収入が減つては、意味がありません。「緑の雇用」という支援事業を活用し、給与は月給制にして健康保険に加入。そのうえに残業代、休日出勤手当など支給して、仕事とスキル向上を両立できるようにしました」



林業に夢を持つ 若者の育成に力注ぐ スキル向上が可能な 職場環境を構築

山と共に歩んで50年の集大成として起業、仕事とスキル向上を両立できる職場環境を整え、林業の次の世代を担う若い力の育成に力を注ぐ。

「IT技術使い設計や図面引き 専門技術を持つ有資格者多数」

森林の土壌は、自然の貯水槽であり、スギノキは、天然の空気清浄機。林業はその森林を守り育てる誇り高い仕事であり、夢のある仕事にしたい。「株式会社高橋林業」の代表取締役高橋正二さんは、この思いを胸に、社員の技能向上と職場、労働環境の改善に力を注いできた。IT技術を使つて、危険、きつい、きかない、など林業の3Kのイメージの払拭に努める。その取り組みは、林業を効率的なビジネスにするスマート林業が目指す方向にする。

相模原市の同社事務所を訪れた人は、一様に、社員10人のデスクに1台ずつパソコン

林業が直面する課題 責任感を持たせる意識改革

我が国の林業は、1980年のピーク時、産出額約1.2兆円、従事者約1万4千人だったものが、この36年間で3分の1に減少、林業従事者の平均年齢も50歳を超え、手入れの行き届かない山の荒廃が進む。戦後の大規模な植林が伐期を迎えつつあり、この難題を乗りきるには、若年層の人材育成がなにより重要と考える高橋さんは、若い社員が自発的に林業を支える意志を持つことも重視する。

「若い社員に責任感とやる気を持たせるために、現場の監督員に指名したりして、そこで様々な経験や体験を積む事により、若い従業員は大きく成長します。林業を次の世代につなぐには、スキルとやる気を持つ若者が必要なのです」

山梨県庁で30年間、林政に従事した後、森林組合の参事を2年間務め、起業。通算60年超の歳月を山と共に歩んだ高橋さんの林業の未来図には、先端技術を身につけた若者が時代の要請に応えるべく、新たな林業を牽引する光景が描かれているようだ。



代表取締役 高橋正二氏
神奈川県出身。地元の湘南高校を卒業後、山梨県庁林務部の職員として30年間林政に従事。なかでも林業改良指導員(Ag)として12年間、山梨県内の林業改良普及の助言や指導にあたる一方、退職後は森林組合の参事を2年間務め、林業経営のノウハウを高める。1999年に「株式会社高橋林業」を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に情熱を燃やし、林業のイメージ刷新に意を注ぐ。

が置かれた光景に驚く。社員のうち3名が林業技士、4名が流域森林管理士、6名が林業作業士の資格を持ち、現在2名が流域森林管理士の資格取得を目指して猛勉強中だ。林業技士は森林を守りながら合理的な林業経営やその指導を専門に行う技術者。森林保護、森林施業計画、造林などの事業に関わる計画書の作成や施工、また、作業道、作業路の調査、測量、設計、施工管理などを行う。森林総合管理分野では森林情報のIT化に関する知識も求められる。

「当社の社員は、20、30代が中心です。これは業界でもかなり若い部類だと思つていますが。現場作業は、母樹から採取した種から育てた苗を約1haに3000本植え、間伐や枝打を実施、成長や形状の良い木を残し



会社事務室

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848
☎ 042-684-9610
📍 神奈川県相模原市緑区牧野8772
✉ takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp

林業の夢とロマンを求めて60年
現場と事務もこなす力を
身につけさせ
若者の人材育成に
愛情を注ぐ



林業講演会(講師として)



伐材処理



林業研修場(中学校)